

ビオトープだより第8号

会員・BAより ビオトープに関する情報を提供します。

特定非営利活動法人
日本ビオトープ協会
<https://www.biotope.gr.jp/>

1. 楽しいビオトープ観察会の報告

個人会員 清田康博

くまのみらい保育園のビオトープ観察会の報告

くまのみらい保育園のビオトープは、園児たちがいつも遊んでいるのが目に浮かぶようなビオトープです。そこでは、園児たちが池の生き物を見たり、虫や草木に触れている事がわかります。ビオトープ観察では、保護者達と一緒に、身近な生き物たちの実物を見て触れ、親しんでもらいました。

- ① 新型コロナの拡大で、今回初めて3回に分かれて密にならないように、9時から年少、10時から年中、11時から年長に分かれて実施しました。
(保護者と卒園1年目の小学一年生も参加)

- ② 多くの生き物を事前に準備。
メダカは、園児の数だけ120頭をペットボトルに準備し、上から下から観察をしました。



メダカを
間近で観察

- ③ メダカの目を人間の目にするるとどんな大きさになるか？
「メダカの池での役割」「メダカの特長」
「観察のポイントをA-3に書き説明」



メダカの目は
大きいよ!

- ④ ミミズなどの土壌生物を事前に捕獲し、手で触れたりして観察をしました。
土の塊を崩すと土の中からミミズがニョロニョロ出てくるのに驚く園児もいました。



土の塊の中に
ミミズはいるかな?

- ⑤ この時期の観察会には危険な生き物に出会う事もあります。その時にどうするか？
『ムカデに刺されたらどうする』『マムシに噛まれたらどうする』『マダニに吸い付かれたらどうする』『スズメバチに刺されたらどうする』など体験談を交えて話をしました。
- ⑥ 園の先生による「生き物クイズ」「ゲーム大会」などをしました。

園児たちは、園庭ビオトープで、生き物への触れ方を養い、生き物への愛情を育み、自然での経験を培いました。

指 導 者

- ・主席 BA：葉名 康弘（ミミズ担当）
- ・メダカの専門家：清田 康博
- ・BA 補助：高村 有希
- ・主席 BA：統括指導者 梶岡 幹生



-省エネ住宅は地球温暖化を救う！！-

8月29日(日曜日)表記タイトルで、岩手県主催の省エネ住宅セミナーが開催されました。盛岡動物公園 ZOOMO を会場、日曜日の親子連れが多く来られる機会に、ビオトープ協会として野澤に講演を依頼いただきました。県のセミナーとして異例の会場・異業種間で開催するゼロエネルギー住宅の普及を目的としています。出来るだけ一般市民が理解し認識を共有したいとのことで、子供さんが一緒であることを意識し、途中に4コマのクイズを入れた50コマのスライドを作成しました。

しかし、コロナ感染者が増加する傾向にある岩手として、県独自に知事が「緊急事態宣言」を発出しましたので、急遽客席は関係者だけに絞り、講演はプロのカメラマンが4台のカメラで映像に撮って、後日WEBで配信することとなりました。

日本では他に例を見ない、「いわやま公園」の豊かな自然環境に開設されている盛岡市動物公園は、塀で囲まれることも無く周りの森林との境界も緩くて、カモシカの親子や鹿の群れ、ハチクマ(クマタカ)も棲息しています。先日はツキノワグマも入ってきたことがセンサーカメラで確認され、さすがに来場者に万一のことがあってはと安全が確認されるまで閉園となり、セミナー前日に再開園したばかりでした。親子連れや若い人たち1000名以上が訪れ好天にも恵まれて、心地よい自然環境の中で動物たちを観察して楽しんでいました。

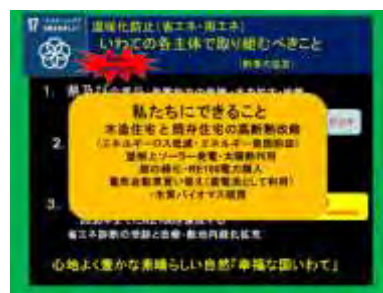
講演内容の一部と会場の動物公園写真で雰囲気を紹介します。

お話しした要点は下記の4点です。

1. «生物多様性を持続的に守る事は、持続可能な私たちの食糧源を維持すること»
2. «各家庭でできるSDGsとして、ゼロエネルギー住宅(高断熱改装・木造住宅の断熱効果・太陽光発電の設置・木質系暖房)を推進。そして電気自動車(家庭の蓄電池)»
3. «温室効果ガスゼロは、化石燃料ゼロの事・・産業革命以来経済的に豊かな社会を目指してきたが、その裏で貧困国・貧困者・餓死者を生み出し貧富の大きな格差が出ていて、SDGsの理念「誰ひとり置き去りにしない」事が2015年に締約国で決議されたこと。アフガニスタンで銃撃死された中村医師は、「100か所の診療所より一本の水路」を・・延々と水路を引き、穀倉地帯を復元しSDGsを具体的に遂行したこと»
4. 未来社会の街づくりは、持続可能なCLT木造で展開し木材の安定的生産で林業活性化を図ること。(木造は、断熱性に優れていて鉄筋コンクリートより強靱であること。法隆寺1300年)



岩手県省エネ住宅セミナー



高断熱住宅・再エネ電力

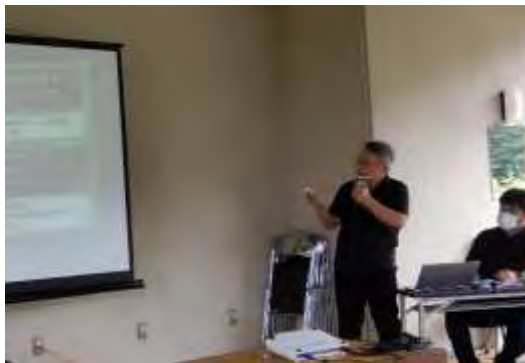


この子供たちに豊かな社会を



盛岡市立動物公園「ZOOMO」

今年 10 月より全面的なリニューアルにはいります。2023 年春新たなコンセプトで新装開園となります。園内の谷には、湿地と小さなせせらぎがあり、ホタルも自然発生。ビオトープが計画されています。



今回のセミナー講師を務める野澤副会長

森林からの涼風が吹き抜ける、野外の展望テラスを会場に開催されました。関係者だけの観客となりましたが、4 台のカメラを設置しての動画撮影。

後日編集して発信することになります。



「イヌワシ」全国でも約 80 組が棲息する生態系ピラミッドの頂点。3羽が飼育され繁殖を試み野外への放鳥も視野に入れています。岩手の北上山地には、約 30 組のイヌワシが棲息しています。

国の天然記念物、環境省レッドデータブック絶滅危惧 IB 類 (EN)

この生息地は風力発電に最適の条件との事で、FIT 制度で利益目的の県外資本が進出していてイヌワシにとって最大の脅威となっています。



動物公園内では、豊かな自然環境の中で、親子連れのくつろぐ姿があちこちで見られます。子供たちの生き物への興味と大切さを学ぶ機会となっています。

3. 【SDGs 14】『オーシャン・クリーンアップ』『南三陸 戸倉っ子かき』

総務委員長・主席 BA 梶岡 幹生



【SDGs14】海の豊かさを守ろう



THE OCEAN CLEANUP

オーシャン・クリーンアップ



世界中で問題になっている、海洋プラスチック。
廃棄されたプラスチックが海を漂い、鳥や魚が餌と間違えて食べて死んでしまったり、
小さくなったプラスチックをプランクトンが食べ、そのプランクトンを魚などが食べて、
やがて人間の口に入り健康被害を及ぼす可能性もあります。

海洋ゴミを何とかしようと、2012年にオランダの高校生 ボイアン・スラットさんが
海洋ゴミ回収プロジェクト『The Ocean Cleanup (オーシャン・クリーンアップ)』を発表。

16歳の頃、家族旅行で訪れたギリシャの海で 魚よりもプラスチックゴミが多いことにショックを受け、
海をキレイにすることを決意。

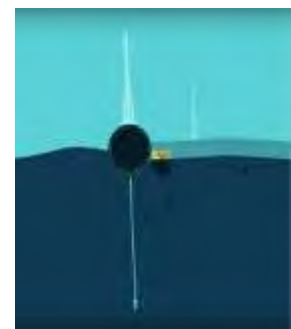
The Ocean Cleanup (オーシャン・クリーンアップ)

風や潮流の影響でゴミが特定の場所に集まることに着目。

太陽光などのクリーンなエネルギーを活用して、大量のごみを回収、リサイクルできるシステム。

- ブイを並べて巨大なU字スクリーンを作る。
- ゴミが潮流に乗り、自然にU字のスクリーンの中央に集まる。
- そのゴミを定期的に回収。
(太陽光発電で回収装置を動かすようになっている)

※ 魚などの海洋生物はスクリーンの下をすり抜けるため、
生態系への悪影響がありません。



豊かな海を守るために、『ゴミをポイ捨てしない』『ゴミを拾う』『エコバック持参』など
私たちが身近にできることから気をつけましょう！

南三陸 戸倉っ子かき



2011年の東日本大震災では、宮城県南三陸町の戸倉地区のかき養殖業者も、養殖のためのいかだや、設備、道具などが津波で流され、大きな打撃を受けた。

震災後、戸倉地区のかき生産者たちは、

『ゼロから再スタートするなら、自然になるべく負荷をかけない養殖業を目指そう』と、ひとつの大きな決断をした。

いかだの数を3分の1に減らすなどの取組みにより、
『持続可能なかき養殖』に転換

• **いかだの数を3分の1** ➔ 従来の半分以下の期間で出荷可能なサイズに成長するように。

- いかだの数を減らすことで、ひとつひとつの牡蠣に栄養がしっかり行き渡り、従来の半分以下の1年で出荷可能なサイズに成長。
- 1年ものの牡蠣は、2~3年かけて大きくなる牡蠣と比べて、苦みが少なく、甘みが濃い。

• **日本で初めて ASC 養殖場認定を取得。**

環境と社会に配慮した養殖業を認証する
『海のエコラベル』である ASC 国際認証を取得。



日本初の ASC 認証の牡蠣には戸倉の牡蠣漁師たちの努力と誇りが詰まっています。

• **養殖量 3分の1 ➔ 生産量 2倍 ・ 生産額1.5倍**

生産量や生産額が増えて収入が安定。後継者たちも海に戻ってきているという。

• **働き方が変化**

いかだを減らしたことで、ひとつひとつを丁寧に育てられるようになり労働時間も短縮。家族との時間もできたという。

震災被害という大きな不幸を、持続可能な方向へと転換するチャンスに変えた

世界的にみれば、スタンダードになりつつある ASC 国際認証。

『おいしくて』『責任のある』食べ物を選ぶことも『海の豊かさを守る』ことにつながります。